

## 第四回シンポジウムの開催に際して

中国第一歴史档案館館長 邢永福

尊敬する専門家、研究者ならびに御出席の皆さま

本日、第四回中国・琉球交渉史に関するシンポジウムを開催するにあたり、中国第一歴史档案館を代表して、心からお慶び申し上げます。あわせて、本シンポジウムにご出席下さった中国・日本の専門家、研究者の方々に対する心からの歓迎と感謝の意を表します。

中国と琉球の交流の歴史は長く、文献の記載に依りますと、今日に至るまですでに千三百余年の歴史があります。早くは隋朝の大業元年（六〇五年）、隋の煬帝が羽騎尉朱寛らを琉球に派遣しており、以来、両国は途絶えることなく何らかの関係をもっております。明朝の洪武年間に至り、中琉両国は初めて正式に冊封・朝貢関係を結び、この関係は清朝光緒初年まで継続しました。この五百余年もの長い歴史の流れの中で、中国と琉球は冊封、朝貢、官生の派遣、学者の交流等を通して非常に緊密な関係を保持し、政治、経済、文化等各方面において幅広い交流が行われてきたのです。従ってこの間の中琉歴史関係を深く研究していくことは非常に有意義なことです。

中琉歴史関係の研究は重大な課題であり、関連する領域が非常に広範囲であるため、東アジアの交通史、東アジアの貿易史、東北アジアと東南アジア各国各地域の関係を研究する上で、重要な意義があります。一九九一年三月

『清代の檔案マイクロフィルムの相互交換に関する中国第一歴史檔案館と日本国沖縄県教育委員会との覚書』の締結以来、特に一九九二年の第一回中国・琉球交渉史に関するシンポジウムの開催以降、私たち双方はすでに三回のシンポジウムを開催し、中文・日文を収録した論文集三冊を出版いたしました。また中国第一歴史檔案館は『清代中琉歴史関係檔案選編』等三冊の檔案史料を編纂出版いたしました。さらに現在整理編纂中の二冊の内『清代琉球國王表奏文書選録』が近いうちに出版されます。これらの史料と沖縄県が編集出版している『歴代宝案』とは相互に実証、照合ができ、中琉歴史関係の研究を大いに促進させるものです。

数年来、双方の責任者および担当者など関係者各位の努力と関連部門の支持の下、また双方の専門家、研究者の熱心な研究とたゆみない努力の結果、中琉歴史関係の研究は輝かしい業績を残し、多大な成果をおさめました。

今回のシンポジウムにおいてもご出席の専門家、研究者各位の熱心な研究討論を通して、必ずや中琉歴史関係の研究がさらに深く推し進められることと信じております。

最後に、この第四回シンポジウムの成功をお祈りして、あいさついたします。

一九九七年十月二十八日